

毒性試験成績報告書

王子通商株式会社

殿

第 NB311011 号

平成 15 年 12 月 10 日

株式会社 王子通商 研
名古屋市守山区天子田 目710番地
TEL(052)711-7117 463-0037

貴社より平成15年11月10日受け入れの下記検体について、試験を行ないましたので、ここに報告いたします。

試料名：OTS-700 サルツチュウ加工原液

記

試験の名称：マウスにおける急性経口毒性試験

1. 要約

試料：OTS-700 サルツチュウ加工原液をddY系マウスに単回投与し、急性毒性試験を実施した。雄雌ともに10000mg/kgの用量を投与したが14日目まで死亡は見られず、毒性徴候なども見られなかった。LD₅₀値は10000mg/kgを上回ると推定され、下記のように以上という形で示した。

LD₅₀値 : 10000 mg/kg 以上

2. 試験方法

・試料

OTS-700 サルツチュウ加工原液

(1) 供試動物

ddY系マウス、5週齢で購入し、1週間の馴致後6週齢で試験に供した。試験開始時の体重の平均値は雄29.2g、雌24.6gであった。

(2) 試験環境

飼育室は室温20～25℃、湿度30～70%、照明時間12時間（午前6時点灯、午後6時消灯）とした。同性の10匹ずつをプラスチックケージに収容し飼育した。固型飼料CE-2（日本クレア）及び水は自由に摂取させた。

(3) 投与方法

投与は午前中4時間の絶食の後、経ロゾンデ針を用いて行なった。予備試験の結果より雄雌とも投与可能な最大量10000mg/kgを投与した。1用量につき雌雄とも10匹のマウスを供した。

(4) 観察方法

投与日は投与直後から頻回に、その後は1日に1回ずつ14日目まで毒性微候を観察した。投与直前、7日後及び14日後に体重を測定した。試験終了時における生存動物は解剖し、異常の有無を肉眼的に観察した。

3. 成績

- ・ 死亡率及びLD₅₀値
試料投与後14日目までマウスに死亡は見られなかった。従ってLD₅₀値は10000mg/kg以上と推定される。
- ・ 毒性徴候
投与後、特筆すべき毒性徴候は見られなかった。
- ・ 剖検所見
試料に関連すると思われる肉眼的な異常は見られなかった。
- ・ 体重変化
投与後の体重の減少などは見られなかった。

4. 考察

本試料の急性経口毒性を調べた。OECDのテストガイドラインでは一度に投与できる最大用量として体重100g当り1mlが定めてある。本試料は予備試験で毒性が低いことが確認されたため、この最大量のみでの投与を行い、死亡及び毒性を示す症状などは見られず体重の減少もなかった。

表 マウスの体重変化 (平均値)

		投 与 前	7 日 目	1 4 日 目
雄	OTS-700 サルツチュウ 加工原液	29.2	34.9	37.6
	ブランク	29.2	33.2	38.0
雌	OTS-700 サルツチュウ 加工原液	24.4	28.1	30.3
	ブランク	24.8	29.0	30.9

単位：(g)

以 上

試験責任者

安 藤 洋 子

